

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (九州)	◎	一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き	・小売がメインの花屋であるため、3月は年間を通して卒業や退職、異動などのイベントが多く、今月は最も売上が多い月となっている。
	◎	観光型ホテル（営業）	来客数の動き	・年度末の駆け込み需要やイベントなどがあるため、集客が好調である。
	◎	観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・春になり暖かくなったため、客の動きが良くなり、インバウンドも増加している。
	◎	ゴルフ場（営業）	来客数の動き	・天候が良いため、来客数が増加している。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・年度末商戦のノベルティが増加している。
	○	商店街（代表者）	販売量の動き	・春になり気温が上がり、ベースアップの話題も出ているため、客の動きが活発になり購買活動が売上につながっている。しかし、中東情勢の影響により若干売上が落ちてくると懸念している。
	○	百貨店（企画担当）	来客数の動き	・春休みに入り若年層の来店が増え、欧米のインバウンドも目立っている。
	○	百貨店（企画担当）	販売量の動き	・3か月前と比較すると、国内客やインバウンド共に売上が増加している。化粧品などの春の新作アイテムを軸に販売量が伸びており、新規顧客の流入も見受けられる。
	○	乗用車販売店（役員）	お客様の様子	・環境性能割廃止等による負担軽減への反応が大きいものの、新型電動車への関心が高く販売も好調である。
	○	その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	お客様の様子	・3月は異動シーズンであるため、コーヒー関係のプチギフトを購入する客が一段と増加している。近隣に学校もあるため、来客数が若干増加し、売上は前年比110%になっている。
	○	タクシー（統括者）	販売量の動き	・乗務員数が数か月間好調を維持している。そのため、稼働台数が増加し、販売量が増加している。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・当商店街が再開発されるため、客は買物がしづらい状況となり、近隣のスーパーに流れているのが現状である。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・物価が立て続けに上がり、先行きが不透明であるため、生活が苦しくなる人が増加することが心配である。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・3月中旬から来客数が少しずつ増えているが、売上は厳しい商況である。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・3月に入り気候も良くなったため、商店街への来客数も増えてきた。
	□	百貨店（企画担当）	来客数の動き	・天候は前年とほぼ変わらないが、来客数が前年比5%減少している。それに伴い、以前より衣料品の売上が不調である。堅調であった食料品の売上も下落傾向にある。
	□	百貨店（営業企画担当）	来客数の動き	・世界情勢の影響により、消費者の生活に直撃する経済打撃に加え、将来的な見通しが不透明であるため買い控えが来客数に影響している。
	□	百貨店（経営企画担当）	来客数の動き	・来客数の前年比は3か月前と比較しても依然として前年割れの状況が続いており回復していない。
	□	スーパー（店員）	お客様の様子	・特売品や半額処分商品はすぐに売れる状態である。
	□	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・エリア内に競合店舗の新規出店があり、来客数や購買数が前年比マイナスで推移している。物価上昇を受けて、消費者は少しでもお買い得な情報に、より敏感に動く傾向が高まっている。
□	コンビニ（経営者）	単価の動き	・天候が良かったにもかかわらず、食品全般において値上げが続いたため、商品の購入はあるが来客数が伸びていない。	
□	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・店舗前面の道路工事の影響により、店の出入りに支障を来し、来客数は大幅に激減している。そのため、売上が低下し厳しい状況が続いている。	

□	コンビニ（エリア担当・店長）	お客様の様子	・売上の前年比は減少していないが、物価上昇している分が販売点数を補っている。来客数は前年を割っており、この状態が続くと見込んでいる。
□	衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・3か月前と比較すると物価は高騰し、ガソリンも上昇しているが、賃金改定が余りなかったことが露呈している。中小企業に勤めている人の生活は改善されていない。
□	家電量販店（店長）	来客数の動き	・新生活需要は動きが鈍く、来客数の前年比80%で回復しないため心配している。
□	家電量販店（従業員）	販売量の動き	・値上げによる購入単価の上昇で売上がアップしている。
□	乗用車販売店（役員）	来客数の動き	・決算商戦の買い回りと、4月以降の注文再開車種の商談と重なっており、来客数は多い。
□	住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・客は置き家具の購入を1度の来店で決めるのではなく、購入までに時間が掛かる。今月前半の来店は売上につながらなかったが、後半には売上が増加した。しかし、前年には及ばない。
□	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	来客数の動き	・年末年始頃から特にシールの需要が高まり始めていたため、現状の推移と変わらない。1点の単価が低いため全館的に来客数が伸長し、取扱店舗は軒並み前年比150～200%の推移となり、全館の集客にも寄与している。
□	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	販売量の動き	・実質賃金は上がっておらず、物価対策の効果もまだ目に見えていないため、3か月前と変わらない。国内客の単価は上昇しているが、来客数は前年を下回る月もある。インバウンドについては、中国からの減少を他国からの増加でカバーしている。
□	観光型ホテル（総務）	単価の動き	・宿泊は好調であるが、宴会レストランは材料費高騰による対応が続いている。
□	旅行代理店（統括者）	販売量の動き	・先行販売動向を前年と比較したが大きな変化はない。
□	旅行代理店（統括者）	販売量の動き	・現時点では予約のキャンセル等が発生していないため、変動は感じていない。
□	タクシー運転手	お客様の様子	・昼のタクシー需要はますますであるが、夜間はタクシーが不足する時間帯がある。
□	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・年度末に当たり既存案件の対応は堅調に推移しているが、新規案件は来年度に向けた見積依頼が中心で、直近の販売量の増加にはつながっていない。全体としては3か月前と比べて大きな変化はみられず、横ばいの状況である。
□	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・年度終わりのため、余り消費活動につながっていない。
□	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・光回線の販売が低迷している。
□	通信会社（役員）	お客様の様子	・物価高により特に燃料費等が高騰しており、顧客の購買意欲が減退している。
□	競馬場（職員）	販売量の動き	・競馬業界全体の売上は前年と比較すると好調に推移しているものの、当競馬場の売上については横ばいが続いている。
□	美容室（経営者）	販売量の動き	・2～3か月前の売上と比べると良くなっているが、動きは少なくほぼ横ばいである。不安定な世界情勢の影響によると考えられ、景気回復の兆しはない。
□	美容室（店長）	来客数の動き	・今月は卒業式などがあり来客数も増えたが、余り変化がない。
□	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・住宅会社の多くは決算期となるため、客の動向があるものの景気が上向く状況ではない。
□	住宅販売会社（従業員）	それ以外	・現状では株価の動きもなく変わらないが、中東情勢の影響により石油製品が値上がりすることが考えられる。現段階の取引では値上げはないが、将来は上昇する可能性がある。
▲	商店街（代表者）	単価の動き	・値上げにより売上が前年比で約15%増加しているが、来客数や購買点数の減少が問題点と捉えている。

▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・物価高による消費活動の停滞、商店街の来客数の減少に伴う販売量の減少に加えて、イラン情勢で更に先行きが不透明となっている。今後、物価高が更に進むことが予想され、客は消費を控えている状況である。
▲	一般小売店 〔茶〕（販売・事務）	販売量の動き	・食品の高騰に続き、ガソリンも高騰すると家計の負担はかなり大きくなる。そのため、客の購買意欲はなくなり、小売店の販売量は低迷につながり売上は減少している。
▲	百貨店（経理担当）	販売量の動き	・物価の上昇もあり、依然として婦人、紳士服の衣料品関連の売上が前年割れしている。インバウンドの減少で化粧品も苦戦を強いられているが、食品催事及び飲食においては好調である。
▲	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・ガソリン価格の高騰は、車社会の地方では影響が大きく敏感に反応する。イラン情勢による原油価格の高騰が生活全般に影響が及ぶことを心配している客が多い。日中関係の影響や原油価格の高騰などは我が国だけで改善できるものではないため、客の不安が強く、しばらく様子見の状況である。
▲	スーパー（店長）	お客様の様子	・イラン情勢のあおりで原油価格の高騰の影響が出て、消費者の生活防衛意識は更に高まり、販売点数抑制や来店頻度の減少につながっている。特に食品スーパーの来客数ダウンが顕著であるため厳しい状況である。
▲	スーパー（店長）	単価の動き	・春闘も終わり賃金上昇が見込まれるが、物価上昇が大きいいため可処分所得としては増加せず、景気上昇にはつながらない。
▲	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・イラン情勢の影響による原油調達の懸念が、ガソリン価格高騰やナフサ供給の不安に結び付いているが、これらのコスト増加が物価に反映され、消費者の買い控えにつながっていると推測している。特に高齢者の買い控えが深刻である。
▲	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・イラン情勢が不透明であるため、原油価格高騰の不安から景況感はやや冷え込みに向かっている。
▲	スーパー（従業員）	お客様の様子	・原油価格の高騰や人件費の高騰、人材不足などにより景気が芳しくないため、消費者が価格に敏感になっている。
▲	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・物価高のため景気はやや悪い。
▲	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・燃料費の高騰で車での移動が減少し、来客数が7%減少している。また、コンビニ主力商品の米飯、ドリンク、たばこの売上も減少している。
▲	コンビニ（店長）	販売量の動き	・ガソリンやたばこは値上げされ、売上は値上げ分だけが上昇しているため、まだ不景気である。
▲	コンビニ（店長）	販売量の動き	・イラン情勢などにより、マインドが冷えている。
▲	衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・春物衣料品の購買意欲が高まる時期に入ったが、客の来店がほとんどなく、商戦ニーズも年々少なくなっている。
▲	家電量販店（店員）	販売量の動き	・新生活のシーズンであるが、必要最低限の購入や使い回しが顕著になっている。単価も下がり、3月の商戦期としては厳しい状況である。
▲	住関連専門店（従業員）	来客数の動き	・例年と比べ、特に県外への進学ニーズが落ち着いているため、新生活需要が伸び悩んでいる。
▲	都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・販売客室数はやや下がっているが、単価が客室数確保のため、数か月前とは開きがある。需要の問題ではあるが、3月は高単価と低単価の差が激しく、週末の売上は3か月前と同様であるが、平日は下がっている。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・売上は前年比100%前後で推移しているが、ガソリンを筆頭に物価高が続いているため、消費が停滞している。しかし、中国からのインバウンドは徐々に上向いている。
▲	観光名所（職員）	単価の動き	・燃料や資材等の高騰により、様々な物の価格が高くなると同時に、車での来場者が減少している。

	▲	ゴルフ場（従業員）	単価の動き	・韓国からのインバウンドが3月上旬から徐々に少なくなり、全体の入場者は微減であるが、客単価が減少傾向である。さらに、中東の原油に関する問題が長引けば、一層悪化が懸念される。
	▲	美容室（経営者）	単価の動き	・3月は1年で1番忙しい時期であるが、他店よりも値段を著しく下げてようやく乗り切った状況だった。
	▲	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	それ以外	・診療報酬の定期改定や介護報酬の臨時改定において、従業員への賃上げに対する財源の報酬増加が確定し、来期は一定程度の賃上げが実施できる。しかし、他の産業ではそれ以上の賃上げ率が発表され、人材不足解消にはつながらない可能性がある。本体報酬の増加はほとんどないため、会社の損益好転にはつながらない。
	▲	設計事務所（所長）	単価の動き	・材料や製品の高値が続いているなか、人件費を上げざるを得ない。中東情勢の影響は、価格上昇の一因となり、住宅の着工数が減少している。
	▲	設計事務所（代表）	販売量の動き	・例年と比べて販売量が減っている。
	×	衣料品専門店	お客様の様子	・客は、中東情勢など不安定な世相を気にしているため、買物に慎重になっている。
	×	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・イラン情勢の影響により、ガソリン価格を始め価格情勢が不安定であるため、購買心理が抑制され、店の売上が先行き不透明となっている。
	×	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・例年3月は送別会が多いが、今のところ少ない状況である。2～3か月前と比較するとかなり厳しくなっている。
企業 動向 関連  (九州)	◎	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・主要取引先からの受注が増加傾向にある。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今年度の動きは、半年前から計画どおりで順調に動いている。しかし、材料費や円安、輸出の関税問題などが山積しており、新年度には様々な問題の答えが出てくるとみられる。
	○	電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・自動車関連の取引先より2027年度納入予定の案件やその他の健康関連の取引先より磁気関連の健康商品の強い引き合いがある。
	○	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	取引先の様子	・原油価格の上昇により費用は膨らんでいるが、仕事としては原料の調達がスムーズになり生産が伸びている。
	○	広告代理店（役員）	取引先の様子	・新規事業など投資の活性化が見受けられる。
	□	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3月は年度末となり動きが良く、特に下旬に入り活発化しており、外食居酒屋関係では送別会などの動きが目立っている。スーパーマーケット関連は値上げによるマイナスの影響もあり、若干動きが悪い。冷食メーカーは鶏肉の不足が大きな問題となっているため、引き合いはかなり強くなっている。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注がほぼ決定していたにもかかわらず、キャンセルとなった。イラン情勢による今後の景気の影響は不透明である。
	□	輸送用機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・中東向け車両の影響が台数に表れているなか、生産台数は当初予算以上になっている。
	□	輸送業（従業員）	それ以外	・原油価格の上昇により動きに勢いがなくなっている。本来なら景気が上向いていくとみられるが、現状では様子を確認しながら動いている。
	□	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・保管や入出庫量に大きな変化はないが、運送会社を始めとして様々なところから値上げ要請がきているため、更なる物価高騰、賃上げの圧力を実感している。
	□	通信業（統括者）	受注量や販売量の動き	・特定の商材については一定の受注はあるが、端末類等は投資判断の先送りや案件の慎重化が続いており、セキュリティ等の喫緊の経営課題に直結する投資は選別的に行われている。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・人件費や資材価格が高騰しているが、一定程度の価格転嫁ができています。

	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・物流、運輸業界では大型車の運転手不足が深刻化しており、減便や配送ルートの見直しなど効率化の動きが加速している。また、食品の値上げが続き、消費者の商品選別の目は一段と厳しくなっている。
	□	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・自社の仕事の量や内容に変動がない。
	□	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・企業の人材投資に対するスタンスに変化がない。
	□	経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・来客数が減少したため売上も減少し、在庫過多の傾向になっている。
	□	経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・前月からダイレクトメールを送っているが、反応がほとんどない。
	▲	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ある商社の商品が他の企業に多数流れたため、前年よりやや売上が減少していると推察され危惧している。
	▲	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3月は決算月であるが受注量が全く伸びず、通常月と同程度の取扱となり、倉庫に在庫がたまっていない状況である。原油価格高騰の影響もあり、原料メーカーの取扱量が減少している。
	▲	金融業（経営者）	それ以外	・会員数の前年比がもう少し改善すると予測していたが、減少幅が徐々に大きくなっている。
	▲	金融業（営業）	取引先の様子	・中東情勢による原油価格の高騰等の影響が懸念されるが、現状ではまだ顕在化していない。物価高は長期的に影響し、景気は慢性的にやや悪い状況である。
	▲	金融業（営業担当）	取引先の様子	イラン情勢により、石油の供給が先行き不安定な状況が続いている。ガソリンだけでなく、様々な石油関連商品が値上げになっており、事業者の収益面に悪影響が出ている。
	▲	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・当社の売上については前年比プラスになったものの、前月末比ではマイナスとなっている。イラン情勢により石油の供給不安から様々な物が値上がりし始め、先行きが読めないため3か月前と比べるとやや悪くなっている。
	▲	その他サービス業 [コンサルタント]（代表取締役）	取引先の様子	・市町村から福祉やまちづくりに関する調査や計画策定の業務を受託している。翌年度の業務について、例年3月中旬に事前に指名通知やプロポーザルの案内等が行われる。今年は、その件数が減少し新年度の受注の不安要素となっている。
	×	繊維工業（営業担当）	競争相手の様子	・同業者は借金をせず廃業をしていく企業が多くなり、最悪の状態である。
雇用 関連 (九州)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・3月に入り、求人数が2割弱増加している。定期的にスタッフリストのメール配信を行い、今月は既に2件の問合せがあった。派遣の注文と同時に、直接雇用の人材紹介を利用する企業もある。
	□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数は大きく変わらず、企業側の採用判断は慎重さが続いている。特に新規案件については、欠員補充や短期案件など即戦力を求める動きは堅調である。
	□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・派遣業界では、企業側が採用に慎重である。新規登録者では先付け開始の希望者が多くなっているが、就業開始に至っておらず、目先の受注が埋まらない現象が続いている。
	□	新聞社 [求人広告]（社員）	それ以外	・物価は高止まりしており、購買意欲は横ばいである。
	□	新聞社 [求人広告]（担当者）	周辺企業の様子	・デジタル、AI関連のスタートアップ企業などは引き続き人手不足が続いているが、逆にAIやデジタルに置き換わるような仕事もあり、大手企業では人員整理が続いている。
	□	新聞社 [求人広告]（担当者）	それ以外	・春の歓送迎シーズンになり中心市街地の人出も多く、飲食店も混んでいる。インバウンドの姿も多く見掛けているため、ある程度景気の良い状況が続いている。

□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・医療や福祉では、大口求人者における事業再編や事業所廃止などから求人数の減少がみられている。その一方で、事業所では新たな人材確保が難しく、社員の定着を図るために働きやすい環境整備に力を入れているといった声も聞かれている。
□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は、前年比では2か月連続の増加であったが、今月は減少に転じており、雇用動向は引き続き不透明である。
□	学校〔大学〕 （就職支援業務）	求人数の動き	・2027年卒業の学生を対象とした企業の採用活動が本格化する時期に入るが、一部の大手や準大手企業を除き、どの業種においても多くの企業が人材獲得に苦戦している。既に内々定を得ている学生もあり、前年度と比較すると早期選考は更に増えている。
▲	—	—	—
×	—	—	—